

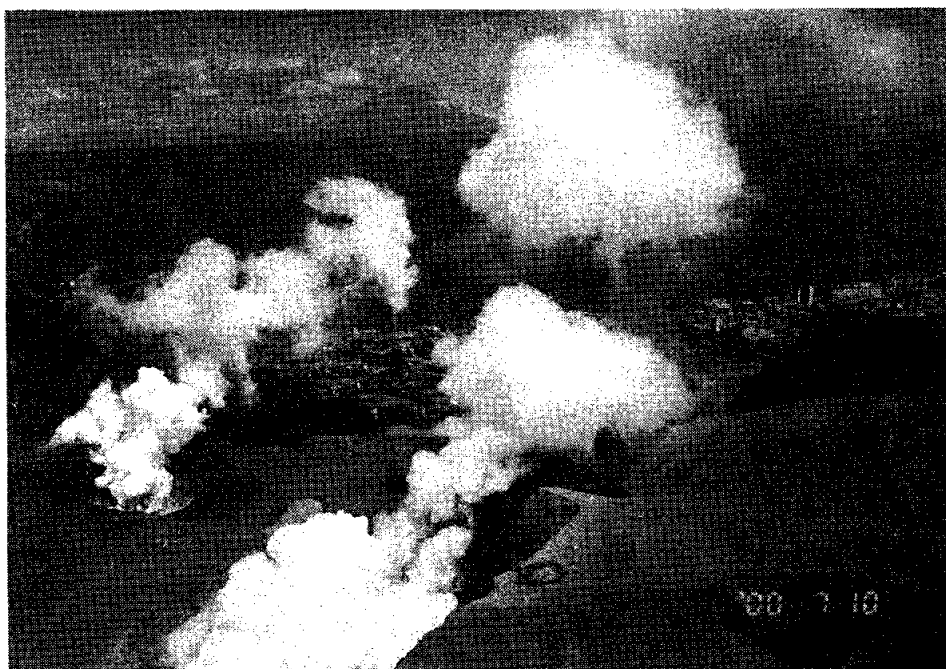
NCS HOKKAIDO

Nature Conservation
Society of Hokkaido

2001年2月 NO.112

..... CONTENTS

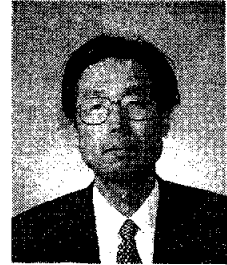
チヨットひとこと..... 嶋田 久夫..... 2	こもんせんす..... 6
知りすぎる不幸、知りえない幸せ 畠山 武道..... 3	各地のニュース..... 8
日高山脈の魅力..... 鮫島惇一郎..... 4	あ・ら・か・る・と..... 10
札幌市民の水がめ「藻岩ダム」左岸に 道路工事が..... 長谷川 稔..... 5	活動日誌、要望書、寄付..... 11
	お知らせコーナー..... 12



有珠山コンピラ山にできたK・AとK・B火口 撮影・勝井 義雄

道外出身者から

群馬県から引っ越して、札幌で暮すようになってから1年半が過ぎました。本格的な雪の中での生活も2回目を迎えることとなりました。初めて迎えた昨冬はさすがに風邪を引いてしまいましたが、一冬越して体が慣れたせいでしょうか、今年は無事に過ごしています。



しほりにしほり込んだ体型をしている私にとって、無事に寒い冬を越せるものか心配もありました。確かに外気は寒く歩き回るのは辛いものがあります。しかし、室内は暖かさを通り越して「冬なお暑く」汗だくの状態でした。知り合いの人などは、冬の室内で下着姿になってビールを飲み、アイスクリームを食べるのが醍醐味なんだよ、と言います。道路の除雪やロードヒーティングのことなども併せて考えると、北海道の冬のエネルギー消費は巨大なものとなるに違いありません。各種の施設を含めて室内の暖房はもう少し控えめでよいのではないかと思うのですが。

群馬にいたときには、毎年夏になると北海道の山歩きに来ていました。本州とは違った青く澄んだ空と一味違った山の風、そして数々の高山植物と野生動物たち。しかし、幸か不幸か、今までに野生の熊に出会ったことはありません。斜里岳はアルピニストのあこがれの山ですし、利尻岳の海の中にそびえた姿は何とも美しいものでした。昨年の初夏に歩いたニセコ山系の神仙沼では木道沿いに水芭蕉が白い小さな花を咲かせていました。水芭蕉というと群馬県の尾瀬ヶ原が有名ですが、尾瀬の水芭蕉は最近富栄養化が進み花も葉も巨大化して風情が失われつつあります。

北海道の山々も本州と同じく中高年の、それも女性を中心とした登山者でにぎわっています。山歩きをする中高年の女性の元気さばかりが目につくこの頃です。ところで、残念なのは、北海道の山々も高山植物の盗掘や入山者による踏み荒らしが目立つという点です。盗掘については、礼文島のレブンアツモリソウが有名ですが、大雪山系の山々やアポイ岳、大千軒岳、西別岳、夕張岳などでの様子について新聞記事やパンフレット等を見ますと残念でなりません。もうだいぶ昔のことですが、夕張岳を登ったことがあります。その時、花の名前の命名のもとになったという日光白根山では鹿の食害により消失しかかっているシラネアオイの大群落が、登山道の両脇にありました。おなじみのうす紫色の花ばかりでなく白花のものも混ざったりしていたことにも驚いたものですが、あの群落は今でも花を咲けているのでしょうか、心配です。

現在、北海道が盗掘防止を目指した条例を作成中とのことですが、条例制定は一つの手段、対策であり問題の根本的解決ではないでしょう。それと合わせて現在各地で取り組まれている地道な運動の継続がどうしても必要となってくると思います。それぞれの運動の足下をしっかりと固めること、そのためのねばり強い活動が望まれます。

嶋しま
田だ
久ひさ
夫お

知りすぎる不幸、知りえない幸せ

——野生動物の管理をめくって——

副会長 畠山 武道

最近のヒューマンゲノムの解析などを見ていると、人間の知識欲・探求欲には歯止めがないように見える。ゲノム解析により難病や不治の病から解放されるのは、人類にとって朗報であろう。しかし、すべてのゲノムを解析し、その人の将来まで知ってしまうことが、当人にとって本当に幸せなのだろうか。知りたいという欲求の向こうには、知りすぎることの不幸という落とし穴が待っているような気がする。

他方で、いくら英知を集めても知り得ないことがある。いや、知り得ないからこそ楽しいともいえる。それが自然（生態系）である。そんなことを、最近、Susan L. Flader, *Thinking Like a Mountain* という本を読みながら考えた。

この本は、今日、野生生物管理学者・環境倫理学者として名高いアルド・レオポルド（1887-1948）の伝記である。レオポルドは、イエール大学森林学部を卒業し、ニューメキシコやアリゾナの国有林で、森林局の職員として働いた。彼の仕事は、減少したシカを増やし、ハンターの要求に応えることであった。そのため、彼は、狩猟の規制、保護区の設置、給餌、オオカミやコヨーテの捕殺などを積極的に実施する。この試みは成功し、南西地域のシカは著しく数を回復した。彼はこの経験をもとに、野生生物管理技術の集大成ともいべき『野生生物管理学（Game Management）』（1933）を執筆したのである。

レオポルドは、その後、ウイスコンシンに移り住むが、そこで彼を待ち受けていたのは、今度は多すぎるシカであった。シカによる生態系破壊を目の当たりにしたレオポルドは、計画的な捕獲を主張するが、「シカは少ない」と考えるハンターや一般世論の強い反発にあう。そんな中で、彼はドイツとメキシコの森林を訪問し、ショックをうける。ドイツでは、管理された森の中に管理されたシカがいるだけであった。しかし、メキシコ北部のチワワ山系では、人が手を加えないにもかかわらず、多様で生産性の高い原生自然が保たれていたのである。彼は、ここではオオカミやマウンテンライオンが、ハンターよりはるかに優れた自然の管理者であることを知り、有名な「山の身になって考える」（1944）を後に執筆する。しかし、オオカミ保護を主張したことで、彼は「オオカミは森のナチであり、シカや小さな動物を食べる。キツネは、けものや鳥をごちそうにするずる賢いジャップだ。レオポルド教授は、木を守るためにジャップかナチを擁護するのか」という激しい攻撃を受けた。

しかし、この話以上に私の関心をひいたのは、彼が1943年のシカ虐殺の張本人として非難されたときに、「シカの推定生息数は重要ではない。植生の状態こそが唯一の満足すべき指標だ。生息数の推定や他州との比較は、問題を分かりやすくするための手助けにすぎない」と答えたことである。この発言は、さらに「43年の血まみれの虐殺は、数値は（事実ではなく）単なる当て推量でしかないと言するレオポルド氏によって推進されたのである」という非難を招く。

このレオポルドの答えは、いろいろの意味に解することができる。しかし、オオカミの話とつなぎ合わせると、レオポルドは、人間はせいぜい植生の状態を知ることができる程度で、シカの頭数まで把握することは到底できないこと、銃をもった人間がオオカミに代表される自然の英知を決して越えることができないことを示唆しているのではなからうか。自然は分からない、分かったつもりになってはいけない。こうした謙虚さが必要だ。

（小樽市在住）

「日高山脈の魅力」

鮫島 惇一郎

日高の山に初めて入ったのは、1947年の夏であります。以来機会を得てこの山に登るようになります。北大山岳部の部報に載せられている報告、紀行文は何度読んでも新しく、山々への憧憬をかきたててくれるのです。

日高山脈のの魅力の第一は、何といたっても原始性にあります。当時使用していた五万分の一の地形図は、あちらこちらに間違いや、不満な点がありましたが、これはこの深い山岳域に足を運び、地形図に作り上げた人々の苦勞を知らされるとともに、それだけにこの山々の原始性の豊かさを示してくれる指標でもありました。

時代がくだると、沢沿いに林道が奥地奥地へと延び、豊であった森林が、年ともにみすばらしくなってきました。長かったアプローチが短くなり、時間が稼げるのはたいへん有り難いことなのですが、同時にそれは自然を蝕んでいく犠牲の上に成り立っている行為でもあったのです。

日高山脈は日本に残された最後の原生域である。よく原始性豊かなと表現されるけれども、千古斧を知らぬというわけでない限り、原始という言葉をつかうにはどうも気がひける。そのようなわけで、より正確に表現するとなれば、原始性の残された原生域というべきかもしれぬ。

日高山脈の価値を知るには、日高山脈がもつ自然を理解することからはじまる。

日高山脈は、つい最近まで奥深い山みとして存在していた。日高山脈は標高は北海道中央高地の山々に比べると低いけれども、山岳は奥深く、地形がことのほか急峻であることによって、一般の人びとの興味の対象となり得なかった。そこにあるのが、ただ山だけということではしなかつたろう。

地質学的な知見によると、日高山脈の成生は古く、中生代ジュラ紀より新生代第三紀（2億5千万年前より1億8千万年前）にかけてその母体が形成され、第三紀末の鮮新世になって、急激な隆起を生じ、第四紀洪積世中期に、現在の高さまで成長したものとされている。

火山の多い北海道としては、もっとも古い歴史をもつ山脈である。

さらに日高山脈を特徴づけるのは、少なくとも23ヶにおよぶカルルの存在である。標高1500メートルないし2000メートルに分布する氷河期の遺存地形は、いずれも洪積世中期に形成された圏谷水河によって形成された。日高山脈が高さを増すにしたがって氷期となり、雪線上に位置していたわけである。北部日高の戸蔭別岳では、低い位置の圏谷底はリス氷期に、高い位置のはウルム氷期に造られ、二重圏谷を形づくっているとされている。

日高山脈の高山に高山植物帯があり、ダケカンバ帯があり、また針葉樹林帯があり、針広混合林帯があり、広葉樹林帯もある。気候の温暖化と寒冷化のくりかえしは、その気候に適した植物群の移動つまり分布を引きおこし、今日の植物社会ができあがっている。

北海道の東部と西部では風土の雰囲気がちがう。風土のちがいを端的に示すものは、植物社会のありかたである。とりもおさず、日高山脈が植物の分布に制約的に働いたことはまちがいない。

日高山脈の地学的特長、植物学的特長、さらに動物学的特長は、気も遠くなるほどの長い時間をかけて、営々と築き上げてきた歴史の結果である。

そして、これらのものが、開発という名のもとでズタズタになった自然のなかで、いまもお、手つかずのままそっくり残されている地域が日高山脈である。化石動物といわれるナキウサギひとつとってみても、その生息地が横断道路予定線のすぐそばにあるほど日高山脈の自然は豊かだといえる。

日高山脈は関係市町村だけのものではないし北海道だけのものでもない。長さ140軒、幅20軒の残された山城が、すでに分断されており、さらに分断されようとしている、1カラットのダイヤを二分の一カラット2個に、また四分の一カラット4個にする愚策がとられようとしている。

価値のあるものをなぜ低い価値にさげようとするのか？

この魅力ある日高山脈の自然を子どもや孫たちに、宝として残してやれないものかと考えております。

(2000年自然保護学校資料より抜粋)

札幌市民の水がめ「藻岩ダム」左岸に道路工事が

豊平川ウォッチャーズ 長谷川 稔

昨年の秋から南区簾舞の藻岩ダムの左岸に市道「砥山豊平川線（観音沢地区）」の建設が始まり、予定地の河畔林が幅30m、長さ約200mにわたり伐採されましたが、現在は工事が一時休止されています。この道路整備事業の概要と、一時休止になった経緯を簡単にまとめてみました。

（道路整備事業の概要）

札幌市建設局土木部道路課の説明によると、1978年に上砥山地区と下砥山地区を連絡していた道路が土砂崩れにより分断され不便である、という理由で、1984年と1991年に地元から同区間の道路整備の請願が出された。

1991年に請願が採択され、それを元に札幌市は緊急災害時の国道230号線のバイパスという位置づけを加え「砥山豊平川線」整備計画を1994年に決定した。

整備区間は南区白川地区（国立療養所札幌南病院前）から小金湯地区迄の5.2km。工事は1995年から開始され1999年11月に砥山橋から滝の沢駅跡の区間（八剣山トンネル含む）が開通した。

（工事が一時休止になった経緯）

市道路課の現地説明を受けたのが昨年（2000年）の10月12日。この時に該当地区の環境調査の説明も受けました。

調査年度は1994年、鳥類調査は5月、6月、11月の3回のみ。3回の調査による出現鳥種は21科45種。この地区は猛禽類が比較的多く観察される場所ですが、市の調査資料には猛禽類がトビ一種のみというお粗末極まるものでした。

我々が3年前から行っている調査（協力者のデータ含む）では猛禽類11種を含む30科89種を観察しています。この中には絶滅危惧種に指定されている猛禽類が6種とキツツキ類1種が含まれています。これだけ多くの猛禽類が観察されているという事は、この場所の自然環境が豊かに保たれているという事にほかなりません。

環境調査が不十分であるという我々の指摘を受けて市は工事を直ぐ休止し、猛禽類を主とした補足調査を年度内に3回実施することを決めました。調査のために直ちに工事を休止した市側の英断は高く評価できると思います。調査は昨年の12月と今年の1月に行われ、3月にも行われます。

環境省の指針によると絶滅危惧に指定されている猛禽類が確認された場合、営巣期を含めて1年半は調査をしなければならないことになっています。しかし、現在、市が行っている調査は今年の3月で終了、来年度の調査は未定です。

貴重な残された生物環境を守る事は当然ですが、藻岩ダムから200m下流には札幌市民の98%に飲料水を供給している白川浄水場の取水口があります。藻岩ダムは札幌市民の水がめです。このような場所に道路を建設する事を許して良いものでしょうか。（札幌市在住）

八つあん・熊さんの議事録(2). 新世紀の年頭所感

固く自然保護論から

八：新世紀だね、めでたいね。

熊：暗い話が続いているけど、何か良いことあったの？

八：「百年の計はこの新年にあり」ってね。ギアをチェンジして気持ちを切り替えるのさ。

熊：ローに入れ間違えて、ますます暗くなったりして。

八：いや、今がローだから、セカンド、サードと順序良く、トップを目指せるのさ。

熊：自然保護のトップ？

八：「豊かな生活」、「自然と調和した生活」かな。

熊：自然を壊してきた理由と同じだね？

八：いや、まったく違う。

熊：同じキャッチフレーズではインパクトが弱いね？

八：いや、中身の問題さ。「豊かさ」、「自然との調和」とは何か、本当に吟味しなくちゃ。

熊：でも、誰でも使う言葉は、やはり印象が弱いね？

八：インパクトあるキャッチフレーズと言ったって、どっかの知事みたいにカタカナが多すぎてもなかなか理解してもらえない。昔から、みんな知っていることさ、「美辞麗句に心がこもらない」、「麗人には毒がある」なんてね。

熊：「クリーンな原子力発電」のように？

八：そうさ。二酸化炭素を出さないから地球温暖化を防ぐと言い、でも、長い将来にわたって監視つけなければならぬ「核のゴミ」には口をつぐむ。大切な言葉を一方的に「まやかし」に使うのさ。

熊：ところで、「反対ばかりしないで、何をするか考えなさい」という自然保護に冷めたい年賀状が届き、驚いたり、がっかりしたりしているよ。

八：それで、暗かったのか。「自然との調和」を逆の意味で使うのと同様に、「自然保護」を「豊かな生活に反対するものと矮小化する傾向（悪意？）」は前世紀の遺物にしくちゃ。反対する意味、反対される意味が大切なのに、それを分らない人がいるのは残念だな。

熊：自然保護は大きな目標、「豊かな生活」を目指している？

八：当然！。新世紀は、自然保護が「人間に関係ない自然」ではなく「本当の豊かな人間生活」を考えているんだということを多くの人に分かってもらわなくちゃ。開発計画の「必要性」を吟味することもそこに目的があり、反対のための反対はしていないぜ。

各地との運動ネットワーク

熊：道内各地で地元の自然を守っている方々から「もっと助力を願う」、「おかげさまで、地元で様々な意見が自由に飛び交うようになった」という二通りの年賀状があった。

八：どんな内容なの？

熊：うん。どちらにも共通する問題は、各地で地元の自然を守ろうとする団体が、いろいろ自然を変える計画について問題だと感じて、地元の「地域振興」の中で考えさせられ、しかも大きな組織と交渉させられるため、「条件闘争」に追い込まれる点だね。

八：なぜなの？

熊：広い北海道において、約半数の人々が札幌市とその近郊に一極集中しており、整備されたインフラによる「便利な生活」を享受している。それに対して、その遅れを取り戻そうとする地域では、当然にも、色々な開発計画が立てられる。その背景があるので、開発計画に反対しにくくなるを感じるよ。

八：難しい問題だね。二通りの年賀状とは？

熊：話は前後するけど、後の年賀状は「協会活動が地元にとってカンフル剤になった」という良い例。外圧によって地元で話し合える状況が生まれたという。でも、前の年賀状は、協会の目が届かない地域から「北海道自然保護協会」としての真の活動を求めている。

八：協会は猛省すべきだね。

熊：そう。協会は、各地と情報交換を密にして、道内で生じた問題にできるだけ早く対応しなければならない。

八：事前に早く、自然を変える計画が分かると良いね？

熊：ところが、地元の自然保護団体が計画を詳細に知った時点では、近い将来の施工が予定され、協会活動が間に合わなくなる例が少なくない。

八：各地とのホットラインをより充実させなくちゃね？

熊：その通り。

八：どこの地域も同じなの？

熊：自然系の博物館や学芸員を置いている、あるいは自然保護を熱心に進める団体がある地域とそうではない地域、これによってまったく違うと感じる。地元での普段の地道な活動が大きな意味を持っているんだ。

八：協会は、そのような活動に応援し、連携の輪を広げるべきだね？

熊：そう。地域の問題や考えを教えてもらうのと同時に、協会として与えるものがなければならない、ギブが重要。

八：ところで、前号の議事録でも触れたが、たとえば国立公園の自然改変計画であっても、地元市町村だけで突然に説明されるのは問題だね？

熊：うん。国立公園や道立自然公園のように国民や道民の財産に関する問題については、自然を改変する側が広く情報を公開して広く意見を求める必要がある。いくら地域の時代と言っても、地元の方だけに責任を押しつけられる問題ではないと思う。

八：広く議論を尽くしてほしいね？

熊：肝心なのは、そこだね。

八：真っ向から「自然保護」を目的とする会ではなく、「自然観察会」が増えてきたね？

熊：地域によってまだないところもある。いずれにしても、保護を語る前に自然を知る活動が非常に大切だと思う。

八：そのような団体とも連携が必要だね？

熊：当然。北海道の自然保護のためにも、皆で助け合わなくちゃ。



(辛子明太子)

「米CA・野生動物レスキュー研修ツアー」を終えて

森田 正治

(森田動物病院院長)

この度、野生動物の救護技術を世界の最先端の施設で学ぼう、と日本初の研修ツアーを企画、実施したので手記を書こう。一年前、米カリフォルニア州立大デービス校附属Wildlife Health Centerの研究員、S. ニューマンを訪ねて渡米した。別れ際に、研修ツアーの相談をしたところOKを得て、今回、実現出来たもの。ところで、S. ニューマンとは、4年前のナホトカ号重油流出事故のとき、来日し技術指導してくれた獣医師の恩人でもある。

参加者は、北海道から九州まで、17才の高校生から73才の大先輩先生まで28名と私。米でのセミナー料は高いものの、「野生動物を救いたい」と熱意ある一般の方が3分の1ほど参加されたのには驚いた。初日は日曜日でもあり、サンフランシスコの市内観光をし、夕方、デービスへ向かい、夜は開講式と懇談会。

デービス校では、油汚染鳥の救護技術の講義を受け、昼休みには、動物病院を見学した。一階が大動物、二階が小動物の診療スペースで、まるで日本のヒトの病院みたいに大きい。見学のガイドが付いてくれて、小動物の手術室をガラス越しに見ることも出来るオープンなものだ。獣医界では、UCデービス校は有名である。その夜は、ホテルで「動物病院に来る野生動物の診断と治療」の講義を受けた。

その後、サンフランシスコの南にあるサンタクルーズの施設で、カモを使って汚染鳥の救護実習を受け、一般の参加者にも採血等の獣医技術を教えてくれたのには驚いた。3日目には、一息ついてもらおうと水族館へ出掛け、ラッコの研究について詳しく学んだ。マリン・マルマル・センターでは、日本ではほとんど学べない海獣類のことを研修し、アシカの解剖では、若い人が積極的にメスをふるっていた。

参加者の皆さんから「大変良かった」と喜ばれ、多くのことを学んだ有意義なツアーであり、来年も実施することになっている。受講者は、21世紀の野生動物のリーダーとして、活躍していただけることを楽しみにしている。

(中標津町在住)

北海道 各地の

函館山車道縁の罹病樹木除伐のこと

宗像 和彦

(理事)

昨年秋、函館市は樹木医の診断により、病木(胴枝枯病、こうやく病)として車道縁の樹木7本の除伐を予定し、また診断にあたった樹木医の見解であるとして、車線全域が立木密生区域と海風吹衝区域に該当し、今後にも罹病木や損傷木の発生の可能性があるため、その対策の必要性があることを表明した。

函館山は陸繋島であり全域が急傾斜地で海風衝域である。函館山を包む林地は、その厳しい地況や気象環境のなかで、植物たちの懸命な生育活動によって形成され維持されてきたものである。そのような林地で、林の生態的構造を理解することなく進められた車道開発と車両通行優先の現行整備(拡幅や道縁枝払いなど)のあり方が、罹病樹木の増大や林の劣化を招いたのは当然である。

車道縁の林地劣化や罹病木の多発は、その主たる因が市の函館山緑地管理の失態にあることを強く認識し、函館市は車道沿い林地の回復、さらにはその劣化が全山林地に波及しないための適切処置を早急にする必要があるだろう。

しかしその際、罹病木や損傷木は次々に除伐、密生域は即間伐、海風吹衝域には強い多種樹木の植込み等という安易で短絡的な処置であってはならない。

函館山緑地の性質と価値の十分な理解にもとづき、生態的対応による保護保全処置が施されることを期待したい。

注目しつつ、声をあげていきたいと考えている。

尚、現在伐採予定の7本については、市と自然保護関係団体による現地視察がもたれる予定である。

(函館市在住)

鳥類標識調査の目的

鳥類標識調査の事をバンディングと言います。1羽1羽の鳥が区別できる記号や番号がついた標識を鳥につけて放し、その後の観察や回収によって野鳥の年齢や、移動について正確な知識を得るという調査です。この調査は世界各国でさかに行われ、各国の標識センターでは、お互いに連絡をとり資料を交換しています。日本では環境庁が山階鳥類研究所に委託して実施しています。全国に設置された鳥類観測ステーションなどで環境庁の許可を得た山階鳥類研究所、大学などの研究者やアマチュア研究者によって、多数の鳥が安全に捕獲され、標識をつけて放されています。日本には、約400人のバンダーがいて一年に約18万羽捕獲放鳥され、北海道では、約60人のバンダーが一年間に約5万5千羽捕獲放鳥しています。アメリカでは100万羽以上の鳥に行われています。

自然保護に関心があった私が、指標生物（自然を見るものさし）を一年中親しみを持って観察の出来る鳥にしました。鳥のことを知るには、捕まえて観察する事が一番理解出来ると考え、バンディングの手伝いに行き、バンダー（鳥類標識者）になり鳥の研究をする事にしました。鳥を捕獲すると、まず鳥の種名を確定しますが、確定できなければ、足輪を付けず放します。種名を確定すると、足輪を付け、雌雄、年齢を判断し放鳥します。時には、翼長、尾長、嘴長、ふ蹠長、体重の計測も行います。この鳥がどこかで何年後かに、捕獲されると、なん年たったか、どこまで移動したか分かります。また私の放鳥した鳥が、捕獲されると、何の鳥がいつ、どこで、誰が捕獲したか山階鳥類研究所から報告があります。

足環の付いた鳥を見つけたら、番号等、いつ、どこで、見たかを千葉県我孫子市にある山階鳥類研究所の標識研究室、電話0471-82-1107に連絡して下さい。後日、山階鳥類研究所から、その鳥がいつ、どこで足環を付けたか記念品を添えて知らせてきます。この連絡は、まだ解明が遅れている鳥の年齢、渡りのルート、生態が解明され、鳥の標識調査のお手伝いした事に繋がり、学術研究に貢献し野鳥の保護に役立つ事になります。

(苫小牧市在住)

小さな教会での緑を守るコンサート

大久保フヨ

(理事)

21世紀の新年明けて早々の4日。円山の小さな教会で「円山の緑と山並を守るコンサート」が開かれ、理事数名参加しました。

これまでの講演会とは違い、「ギターの弾き語りあり」「詩の朗読あり」「歌あり」「札幌団員の方のヴァイオリン演奏」があり、幼児から高齢者まで、みんな楽しんで自然の大切さ、自分たちの住んでいる地域のすばらしさを詩とおし、音楽とおして感じとったのではないのでしょうか。

このコンサートとおして、これからの講演会のあり方など考えさせられました。

突然に金子みすずの「わたしと小鳥とすずと」の詩が思い浮かびました。

「わたしが両手をひろげても、お空はちっともとべないが、とべる小鳥はわたしのように、地面をはやく走れない。わたしがからだをゆすっても、きれいな音はでないけど、あの鳴るすずはわたしのようによくうたは知らないよ。すずと、小鳥と、それからわたし、みんなちがって、みんないい。」

いろいろな人が参加しています。人各々に或る人はギターの弾き語りとおして、或る人はやさしく、力強い詩の朗読をとうして、或る人はヴァイオリンの美しい音色をとうして、或る人は講演者の話しとおして、人それぞれの思いで、形で、自然のことを理解するといいなあと思いました。

みんなちがって、みんないいのですから。

以前にやはり自然環境の講演会に行った時、講演前にピアノ演奏を聞くことができ、とても得をした思いをしたことがあります。

先日の、ゴミのシンポジウムの時も、シンポジウムの前に30分位のピオラの演奏を聞くことができました。

自然は人間の心を和ませてくれますが、音楽も同様に人の心を慰め和ませてくれます。

音楽の大好きな私ですから、講演の他に思いがけない生の演奏が聞かれるなんて、すごく得した気分になります。

小さな教会での緑を守るコンサートは、21世紀の自然保護活動のひとつの形を示していたのではないかと思います。

いろいろな人が、いろいろな形で自然の大切さをみんなに広げていくといいのではないのでしょうか。

私も地域で、遊びとおして子どもたちに自然のすばらしさを伝えていきたいと考えています。(北広島市在住)

新刊紹介

「タンチョウそのすべて」

正富宏之著 北海道新聞社（2000年）A5判、327ページ

釧路市立博物館長、北海道専修短大学長などを歴任された正富さんのライフワークを一般向けにまとめられた大著。

そのすべて—というだけあって、四季を通じた生態や繁殖の紹介から、分布や個体数の変化、保護のための課題などツルをめぐるとりあげている。全ページカラー刷りで楽しめる。愛鳥家のみならず、北海道にしかないタンチョウのすべてを知ってもらうために全道民に読んでいただきたい。



「博物館を楽しむ—琵琶湖博物館ものがたり」

川那部浩哉編著

札幌には博物館が無い。琵琶湖博物館のような市民に密着した博物館が札幌にもと切望する。この本は単なる博物館の紹介ではなく、博物館と市民とがどんな活動をしているか33人の執筆者がそれぞれの思いを書いている。学芸員、展示デザイナー、展示交流員、電話交換手などさまざまな立場の人が、博物館を作る過程から日常の活動、これからの博物館を語っている。自然観察活動はかくありたいと思わせる好著。



シンポジウムの御案内

はるかなる日高山脈

— 原始の自然を未来へ —

とき 2001年3月3日（土） 13時30分～17時30分（12時30分開場）

ところ かでる2・7 札幌市中央区北2条西7丁目・北大植物園正門前

北海道自然保護協会 JCBカード募集開始！

JCB提携カード

- NC（前号）でお知らせした提携カードは予定通り12月1日から会員募集をスタートしました。
- 会費収入が大幅にダウンしている中で事務局態勢を1人勤務とし、さらに支出の合理化・効率化を進めています。
- 協会の財政基金の強化のため、是非ご協力下さい。



活動日誌

2000年10月

24日：拡大常務理事会

2000年11月

21日：拡大常務理事会

2000年12月

6日：豊平川ウォッチャーズ竹中さん、長谷川さんより市の道路開発計画についての説明を受ける

16日：理事会

20日：札幌市建設局土木部道路課の説明を聞く

2001年1月

4日：円山の緑と山並みを守るコンサートに理事参加

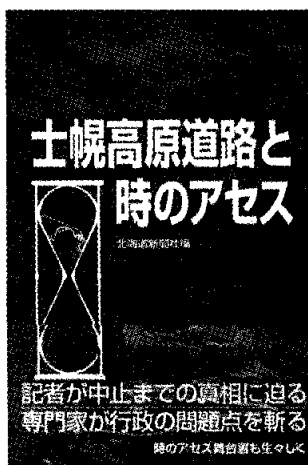
23日：拡大常務理事会

29日：千歳川流域問題意見交換会

30日：自然保護学校開校

会員に割引図書販売

「士幌高原道路」と「時のアセス」検証。
在庫あと僅か。
協会会員には1冊1,600円のところ1,280円で販売中です。お早目に。



要望書など

■2000年10月11日

日高横断道路の再評価を求める要望・質問書 北海道知事から回答書

■2000年10月12日

支笏洞爺国立公園・支笏湖周辺における自然公園核心地域総合整備事業（緑のダイヤモンド計画）に関する意見書を環境庁に提出

■2000年10月27日

札文島・香深井から宇遠内に至る歩道工事に関する意見・質問書を環境庁に提出

■2000年11月13日

札文島・香深井から宇遠内に至る歩道工事に関する意見書・質問書 西北北海道地区自然保護事務所長より回答書

■2000年11月17日

札幌円山地区都市計画見直しに関する質問書 札幌市から回答書

■2000年11月24日

北海道森林管理局・旭川分局・上川南部森林管理署の伐採計画に関する意見・質問書 道森林管理局長へ提出

■2000年11月28日

日高横断道路再評価要望書（追加）北海道知事へ提出

■2000年12月6日

上川南部森林伐採計画意見・質問書 旭川分局指導計画課長から回答

■2000年12月19日

上川南部森林伐採計画再意見・質問書 旭川分局長へ提出

新会員紹介

2000・10・1から2001・1・1まで

【A会員】佐藤ひろみ 宇佐美和子 伊藤 三郎
葉原 隆 小野 昭雄

寄付金

北海道花の名店会	50,000
自然観察指導員阿寒研修会 出席者一同	6,000

*** お知らせコーナー ***

2001 自然保護学校開校

私たちを取り巻く環境を良い状態に保つために、自然をよく知り、自然が大切であることを理解していただける内容で、例年講座を組んでおります。今回は日高の壮大な自然と、その中で何が起きているかをテーマに講座を組みました。今年も第一線でご活躍の方々に講師をお願いし、日高の魅力や問題について講義していただきます。

スライド・OHPなどを使い、分かりやすい内容になりますので、たくさんの方々の参加をお待ちしております。

会場 環境サポートセンターから多目的ホール（札幌市北区北7条西5丁目札幌千代田ビル1F Tel 707-9025）

日時/講師 各回18:30から20:30まで

- | | | | |
|----------|----------------|---------|-----------------------|
| 1月30日(火) | 開校式・「日高山岳の魅力」 | 鮫 島 惇一郎 | (自然保護学校校長、自然環境研究室主宰) |
| 2月6日(火) | 「日高横断道路の問題点」 | 俵 浩 三 | (専修大学北海道短期大学教授) |
| 13日(水) | 「北海道の動物」 | 阿 部 永 | (北海道大学名誉教授) |
| 20日(火) | 「日高の植物」 | 佐 藤 謙 | (北海学園大学教授) |
| 27日(火) | 「壮大な日高山脈の成り立ち」 | 平 川 一 臣 | (北海道大学大学院地球環境科学研究科教授) |

閉校式・修了証授与

*事情により講師の順序が変わることがあります。

会費 資料代として一般4,000円、北海道自然保護協会会員3,500円、学生3,000円（いずれも第1回目の受付時に徴収）。

**えりもシールクラブ10周年記念事業
えりも岬のアザラシを考える。(仮称)**

- 開催日時** 2001年2月17日(土)~18日(日)
- 会場** えりも岬“風の館” 入場無料
- 内容** 両日 9:00~17:00
パネル、写真展示
- 17日 13:00~17:00
子ども対象のアザラシクイズや工作
地元写真家によるスライドショー
- 18日 13:00~17:00
北海道大学教授による講演会
大泰司紀之氏、畠山 武道氏
- お問い合わせ先** 01466-4-2325 倉沢 栄一
01466-3-1133 石川 慎也

西岡自然パネル発足

札幌の近郊にあって自然豊かな西岡公園を良い状態に管理するために、10団体が参加して、情報交換と管理計画について連絡・協議する場を設けた。北海道自然保護協会も参加し、提案型の自然保護活動を行うことにしている。当面の課題は、西岡公園の在り方・位置づけを検討し、関係機関と協議すること、公園施設の適切な配置等について検討することなど7項目を挙げた。事務局は：
062-0034 札幌市豊平区西岡4条14丁目13-27
小川光子方
Tel/Fax 011-583-8676

「ホームページ」*更新しました

ホームページを更新しています。「会員のひろば」を開きます。Eメールで、ご意見お寄せ下さい。ホームページ*に掲載します。
当協会のメールアドレス**は下記の通りです。
*<http://www.jade.dti.ne.jp/~nchokkai/>
**nchokkai@jade.dti.ne.jp

会費納入のお願い

会費納入については日頃ご協力をいただいておりますが、未納の方は至急納入下さいますようお願いいたします。

- | | |
|---------------|---------|
| 個人A会員 | 4,000円 |
| 個人B会員 | 2,000円 |
| (A会員と同一世帯の会員) | |
| 学生会員 | 2,000円 |
| 団体会員 1口 | 15,000円 |

〔会費納入方法〕

- 郵便振替口座 02710-7-4055
- | | |
|--------------|--------|
| 北洋銀行大通支店(普通) | 017259 |
| 北海道銀行本店(普通) | 101444 |
| 札幌銀行本店(普通) | 418891 |

※ この紙は再生紙を使用しています。

